令和４年度　　授業改善推進プラン〈美術科〉

● 美術科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- タブレットが導入され、美術室のWi-Fi環境が整ったことにより
  （第1学年）絵文字のアイデアの発表会において活用することができ、生徒は意欲的に取り組んだ。
  （第2学年）３Dイラストのソフトを用いてロゴマークをデザインした。普段絵が苦手な生徒も積極的に取り組み、発想に広がりを見せた。
  （第3学年）カメラ機能を用いて友人の横顔を逆光で撮影し、横顔シルエットの制作を行なった。モデルの時間が短くて済む上、動かないため、描きやすかったようで短時間で制作ができた。
- コロナによる休業で年間指導計画の見直しを行ない、第2･3年において休業中に自宅でできる課題を実際の授業につなげ、新しい課題を取り入れた。「日本の伝統文化である家紋をオリジナルでデザインし、和風の色彩で表現する」という第3学年の課題では、生徒達の日本の美に対する理解が深まり、高い成就感を得たようである。

● 美術科における分析と課題

【知識及び技能】

表現に苦手意識を持つ生徒がまだ２割ほどいる。基礎基本の知識と技能を身につけるには、相応の時間が必要である。特に第１学年においては、厳選して色彩の基礎、ポスターカラーの扱い方の基礎、素描の基礎を身につけさせ、第１学年で身につけた技能を元に、第２・３学年では主題にあわせ、造形の要素を活用した表現を、見通しをもって取り組めるように授業を組み立てる必要がある。

【思考力、判断力、表現力等】

形のないものを想像し、イメージを持つことに苦手意識を持つ生徒が多い。表現のヒントを、美術室文庫や PC で探せるよう援助の必要性を感じる。また発表会を行うことは、他者の想いや考え方を知り、刺激を受け、発想の幅を広げる有効な手段であった。今後 PC 環境が整えられたことを活用し、発想の広がりを持たせる工夫が必要である。

【学びに向かう人間性】

生徒達は、廊下に展示された作品をよく鑑賞し、美術を愛好している様子がうかがえる。また、毎週一点の作品を鑑賞することで鑑賞活動を充実させ、興味をもって作品を鑑賞することや、自分なりに感想をもち言葉で表現する習慣をつけていく必要がある。表現活動と鑑賞活動を充実させることで学びに向かう人間性を養っていく。

● 美術科における授業改善のための具体的な取り組み

教室環境の整備	授業の流れが一目で理解できるように、板書や用具・作品提出場所を工夫する。前年度の見本作品を教室内や廊下に掲示する。
授業規律の確立	持ち物の準備・チャイム着席・挨拶・話を聞く態度の指導の徹底。
技能の基礎基本	色彩・レタリング・ポスターカラーの使い方といった美術における基礎基本を丁寧に指導し、習得させる。
ものを観る力の育成	デッサンを通して、思い込みを捨て、物をしっかりと観る事を学ばせる。
発想力の育成	自分のイメージにあった画像を探す力や手法を身につけさせる。 他の発想に触れることで、新たな発想を生み出す力を身につけさせる。
活動の振り返り	毎授業、活動の振り返りを授業カードに記録させ、めあてを理解し、見通しを持ちながら作業をしているかを評価・確認する。
作品の展示	完成した作品を掲示することで、承認欲求を満たし自己肯定感を高める。